

氷見市久津呂の菊咲き桜について

中川 定一
氷見市立十二町小学校

氷見市上久津呂の八幡宮の旧境内に残されている桜が、ヤマザクラ系の1品種ノトキクザクラに近縁の新品種である可能性が高いことが判明したので報告する(図1)。

上久津呂の村社「八幡宮」は、文成3年(1892年)に現在の民家近くの小高い台地に移されたもので、問題の桜は、集落の南西1kmの山際(上久津呂字旧宮)の旧境内の跡に椿とともに残されている。「上久津呂八幡宮明細書」によれば、この桜は、明治5年(1872年)に神木とされているが、植栽されたものかどうかは不明である。

1993年4月、元金沢大学薬学部助教授木村久吉先生の調べによって、この桜は、能登半島によくあるヤマザクラ系の菊咲きの一品种(図2,3)であることが分かった。さらに、総花柄の太いことや、がく片が三角形の外片と狭長だ円形または倒卵状狭だ円形の内片を有する特徴があることから新品種として認めてもよいとのことであった。最も近縁な品種は、ノトキクザクラの一品种、ライ

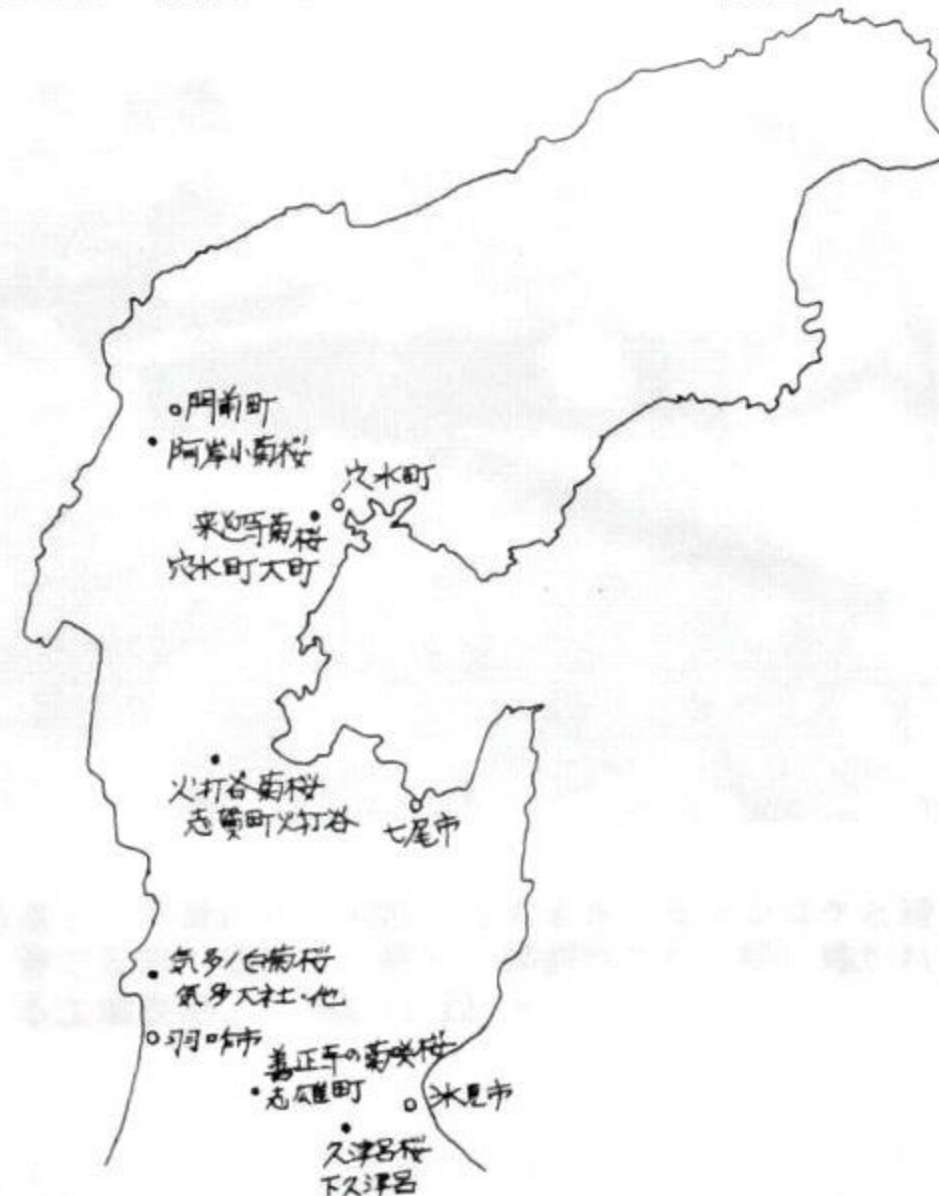


図1. 能登のヤマザクラ系キクザクラの分布地図

コウジキクザクラ(来迎寺菊桜=穴水町)である。今後、近縁品種間での比較を行う必要がある。



図2. ノトキクザクラに近縁の新品種(氷見市上久津呂八幡宮旧境内)

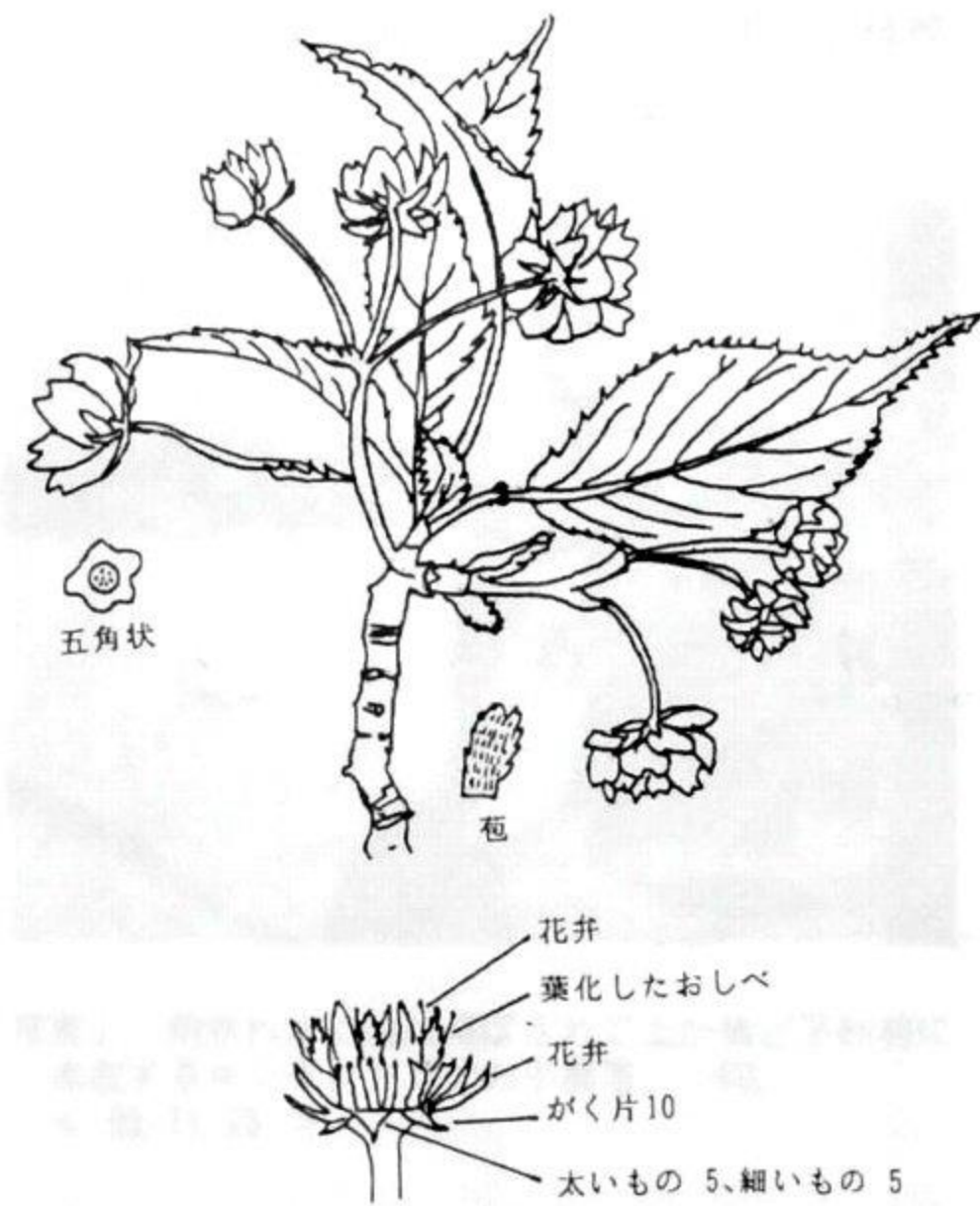


図3. ノトキクザクラに近縁の新品種(図2のものをスケッチしたもの)

富山湾における サラサベッコウタマガイの記録

高山 茂樹
魚津水族館

A Record of *Onchidiopsis nihonkaiensis* OKUTANI & NUMANAMI collected from Toyama Bay.
Shigeki Takayama

OKUTANI & NUMANAMI(1993)は佐渡島、両津湾の水深400~500mのえび籠漁場で採集された大型のベッコウタマガイの一種を新種、サラサベッコウタマガイ *Onchidiopsis nihonkaiensis* OKUTANI & NUMANAMI, 1993として記載した。本種はベッコウタマガイ類としては大型、軟体部は寒天質で生息深度が大きい特徴がある。模式産地の両津湾以外では報告されていない。

1992年に富山県黒部川沖水深300~400mで捕獲された不明種が本種と判明したので、新産地として報告する。本稿作成にあたり、標本を提供された魚住義彦氏及び、第3達丸乗組員の皆様に深く感謝します。

新産地 富山県黒部川沖水深300~400m

1992年5月30日1個体捕獲

ホッコクアカエビ、ノログンゲの底引網に混獲

体長 約10cm

原記載(OKUTANI & NUMANAMI, 1993)では、背面は暗灰色の地に白斑を散らし、白斑の中央が黄緑色である。入手した個体は背面が暗灰色の地に白斑を散らしているが、白斑の中央には黄色の斑点が1~4個連なってあった(Fig.1)。模式産地の両津湾水深400~500mでは比較的普通に採集される(OKUTANI & NUMANAMI, 1993)。黒部川沖では採集例が1例のみで、生息数は少ないと思われる。かつて、富山県下新川郡朝日町赤川沖水深300m付近のアカガレイ底刺網で、損傷の激しい類似の種が捕獲されているが、近年、捕獲されず、種の確認はされていない。

本個体は捕獲、輸送後、直ちに水温2~4℃、水量約1tの水槽で飼育した。底質は粗砂。同一水槽内にはザラビクニンやアゴゲンゲ、クロゲンゲ、ボウズイカ、オオエッチュウバイが飼育されていた。餌はホッコクアカエビのむき身やオキアミ、サバやマイワシなど魚肉を与えたが摂餌は見られなかった。また、水槽の他の生物に襲われる事はなかった。しかし、時々水槽内の魚類に仰向けにされる事があったが、その時、足を収縮する事はなかった。砂の上でじっとしていることが多く、時々移動した。稀に垂直な水槽の亚克力面を登ることがあった(Fig.2)。本個体は約6ヶ月の飼育後、水槽のオーバーフローに吸い込まれて死亡した。

参考文献

OKUTANI, T and NUMANAMI, H. 1993. An unusual lamelliariid gastropod from bathyal depth in the Sea of Japan. *Jap. Jour. Malac.*, 52 (3), 211-215.